

524

524-630



\*1200501493961\*

大正一五  
至昭和元

本邦ニ於ケル木材ノ生産状況

# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

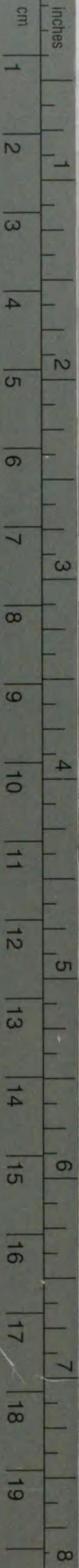
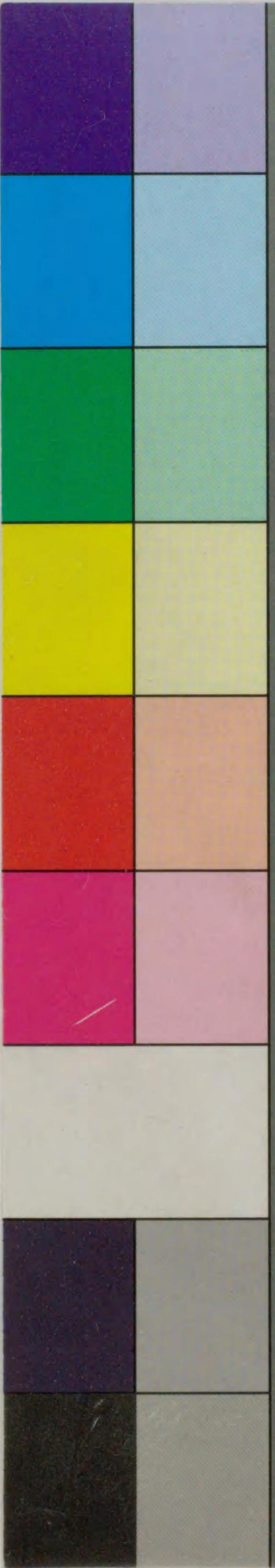
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak









昭和二年三月

本邦ニ於ケル木材「パルプ」生産状況

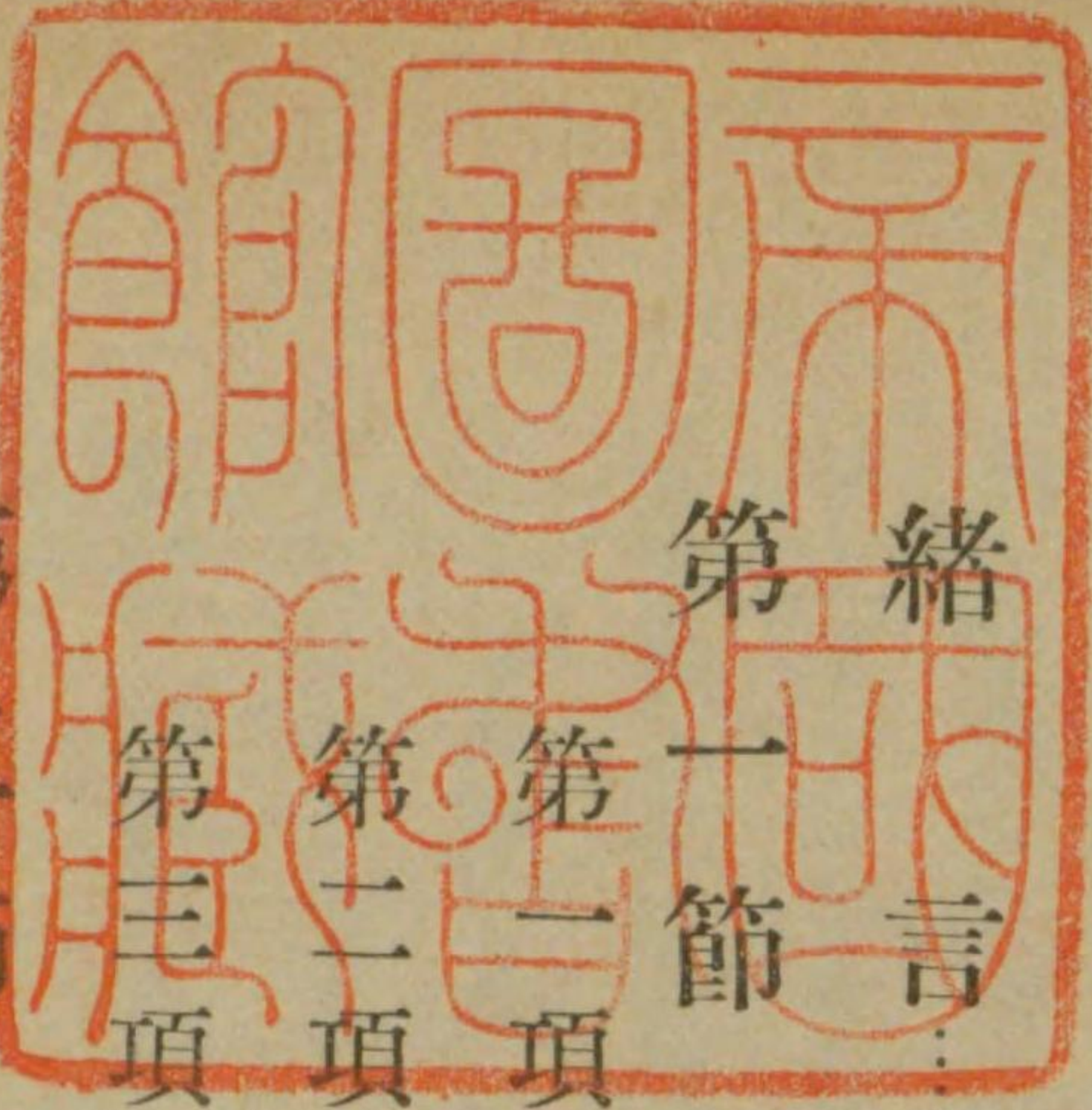
農林省山林局



# 本邦ニ於ケル木材「パルプ」生産状況

## 目次

緒言	一頁
第一節	二
第一項	二
第二項	三
第三項	三
第二節	一八
第一項	一八
第二項	三〇
第三項	三六



ル 寄贈大

ル 寄贈大



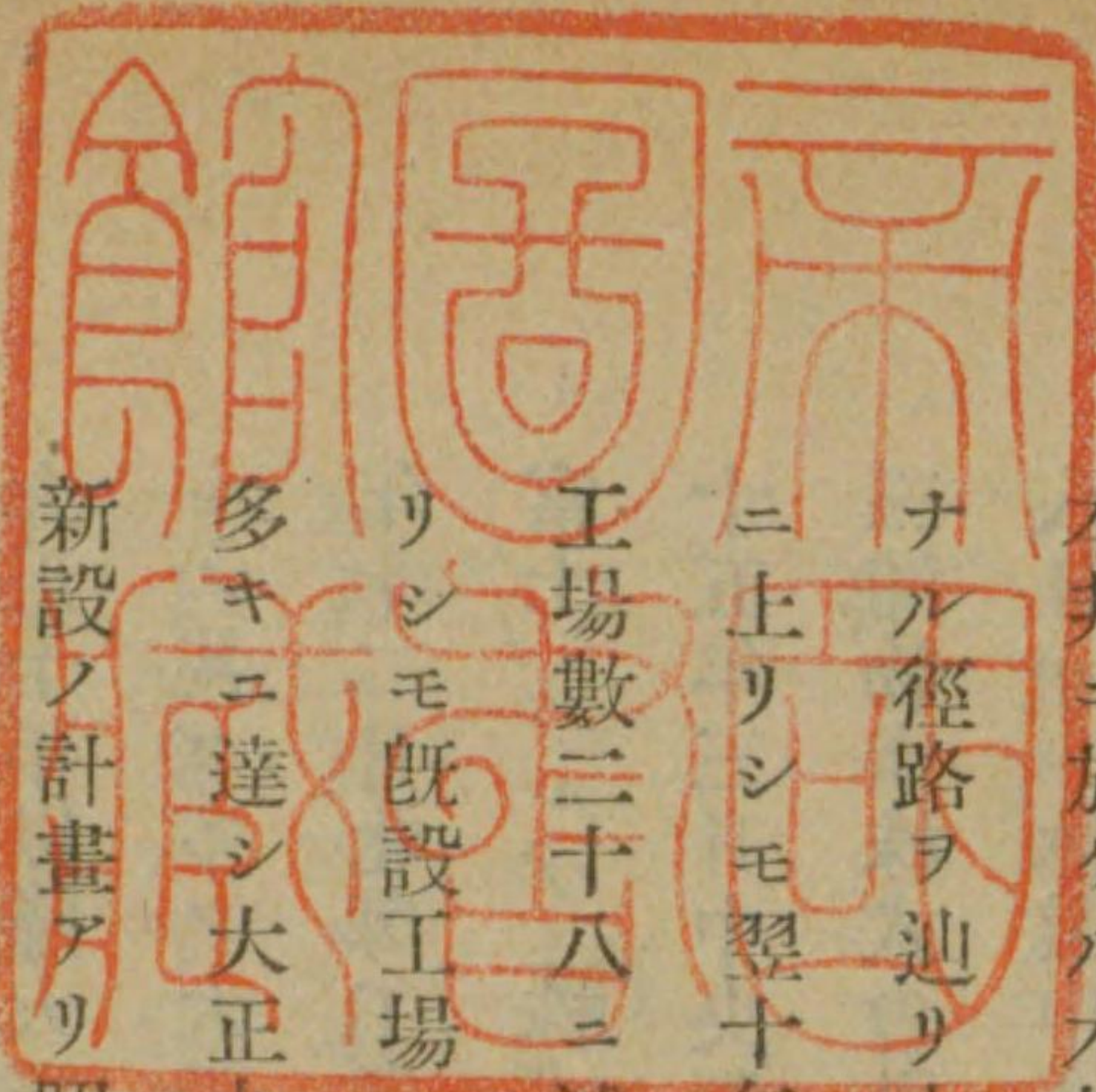
### 本邦ニ於ケル木材ハルプ生産況狀

(自大正十五年一月至昭和元年十二月)

### 緒言

本邦ニ於ケル木材「ハルプ」ノ製造業ハ大正二年頃ヨリ漸次顯著ナル發達ヲ遂ケ大正九年迄ハ年々順調ナル徑路ヲ辿リ大正九年ニハ會社數十七、工場數三十一ヲ算シ木材「ハルプ」ノ生産二十六萬八千餘噸ニ上リシモ翌十年ニハ財界ノ不況、工場ノ災厄、會社ノ併合等ノ影響ヲ受ケ同年ハ會社數十三、作業工場數二十八ニ減シ延テ其産額二十五萬噸トナリ生産稍々減少セリ而シテ引續キ休業中ノ會社工場アリシモ既設工場ハ著シク擴張セラレタルカ故ニ其産額著シク増加シ大正十五年ニ於テハ五十萬餘噸ノ多キニ達シ大正九年ニ比シ約八割六分、同十四年ヨリ約二割一分弱ノ増加トナレリ尙ホ工場ノ擴張及新設ノ計畫アリ昭和二年ニハ約六十二萬餘噸ニ達スル見込ナリ

而シテ原料木材ノ使用量ニ就テハ大正九年ノ三百九十三萬八千餘石ニ對シ同年ニハ稍々減少シテ三百四十八萬七千餘石トナリシモ十一年以降逐年増加シ大正十五年中ハ大正十年ニ比シ五割増ヲ示シ昭和二年ニハ十五年ニ比シ更ニ一割六分ノ増加ヲ來サントスル見込ナリ



本邦ニ於ケル木材ハルプ生産況狀  
 第一節 木材ハルプノ生産  
 第二節 木材ハルプノ消費  
 第三節 木材ハルプノ輸出  
 第四節 木材ハルプノ輸入  
 第五節 木材ハルプノ貯蓄  
 第六節 木材ハルプノ其他ノ事項





## 第一節 本邦ニ於ケル木材「パルプ」製造狀況

### 第一項 木材「パルプ」製造會社工場ノ變遷

大正十年以降大正十五年ニ至ル六ケ年間ハ會社ノ組織ニ就キ種々變遷アリ殊ニ會社ノ合併セラレタルモノ甚ダ多ク大正十年中王子製紙株式會社ハ樺太産業株式會社及朝鮮製紙會社ヲ合併シ更ニ大正十三年十二月北海工業株式會社ヲ買收セリ又富士製紙株式會社ハ大正十一年日木化學紙料株式會社十二年富士「パルプ」株式會社、十四年大日本製紙株式會社中川工場ヲ併合セリ更ニ樺太工業株式會社ハ大正十五年三月中央製紙及九州製紙ノ二大會社ヲ併合セリ而シテ一度事業ヲ開始セルモ其後休業中ナリシ三浦物産株式會社八束村工場ハ引續キ休業中ナリ鴨綠江製紙株式會社ノ南滿洲安東工場ハ大正十一年八月ヨリ休業中ノ處昭和二年一月ヨリ又富士製紙株式會社樺太知取工場ハ大正十五年九月ヨリ事業ヲ開始セリ既設工場中内地材ノ供給漸ク困難トナレル結果王子製紙株式會社ノ静岡縣氣田工場ハ大正十一年二月ニ同社静岡縣中部工場ハ大正十三年九月二十五日ニ工場ヲ閉鎖セリ而シテ大正九年中會社數十七工場數三十一ニ對シ同年ニハ會社數十三、作業工場二十八ヲ數ヘ同十五年ニハ六會社、二十九工場トナリ休業中ノモノハ二會社二工場ニ過キス前記作業工場二十九ノ中碎

木「パルプ」ノミヲ製造スルモノ九工場亞硫酸「パルプ」ノミヲ製造スルモノ八工場、兩者ヲ併セ製造スルモノ十二工場トス現時木材「パルプ」ノ製造ヲ專業トスルモノハ王子製紙株式會社ノ樺太泊工場同野田工場、富士製紙株式會社ノ北海道金山工場、同池田工場、樺太工業株式會社ノ泊居工場、同惠須取工場、東海紙料株式會社ノ静岡縣島田町工場、樺太木材紙料株式會社ノ伏木工場ノ五會社八工場ニシテ其内碎木「パルプ」ノミヲ製造スルモノ二工場亞硫酸「パルプ」ノミヲ製造スルモノ五工場兩者ヲ併セ行フモノ一工場トス

### 第二項 木材「パルプ」ノ産額

本邦ニ於ケル木材「パルプ」ノ産額ハ大正二年ニハ七萬六千餘噸ニシテ同九年迄ハ漸次増加シ同九年ハ二十六萬八千餘噸ニ上リシモ翌十年ニハ前年ノ約七%即チ一萬八千餘噸ヲ減シタリ然ルニ十一年ヨリ再ヒ年々増加ノ狀勢ヲ示シ大正十五年ニハ五十萬餘噸ニ達シ前年ニ比シ二割強大正九年ニ比スレハ實ニ八割六分強ノ増加ヲ見ルノ盛況ヲ呈セリ而シテ大正九年迄ニ著シク生産ノ増加セル地方ハ樺太及北海道ナリシモ同十年中北海道及朝鮮ニ於テノミ産出稍々増加シテ北海道十二萬三千餘噸朝鮮一萬餘噸ヲ算セシモ樺太ニ於テハ五萬四千餘噸内地ニ於テハ六萬一千餘噸ニ減少シタリ然ルニ翌十一年ニハ朝鮮ニ於テ若干ノ生産減少ヲ示セルモ樺太、



北海道内地何レモ増加セリ十二年及十三年中朝鮮ニハ其生産ナカリシモ樺太、北海道及内地ハ何レモ生産ヲ増加シ更ニ翌十四年ニハ樺太十二萬二千餘噸北海道十七萬餘噸内地十一萬三千餘噸、朝鮮八千二百八十噸ニ達シ翌十五年ニハ樺太十六萬一千餘噸、北海道十九萬四千餘噸、内地十三萬二千餘噸、朝鮮一萬二千餘噸トナリ各地方共著シク生産ノ増進ヲ示セリ

本邦産木材「バルブ」大正二年以降大正十五年ニ至ル生産量ヲ示セハ次表ノ如シ

年次	生産量 (噸)	前年ニ比シ増(減)、歩合 (%)	指数
大正二年	七六、〇八一	100	一〇〇
大正三年	八九、八七四	一八	一一八
大正四年	一一二、〇七五	二五	一四七
大正五年	一三四、九六八	二〇	一七七
大正六年	一六九、〇三六	二五	二二二
大正七年	一九八、五九六	一七	二六一
大正八年	二三五、二二七	一八	三〇九
大正九年	二六八、二六一	一四	三五〇
大正十年	二五〇、〇二七	(六・八)	三二七
大正十一年	三〇一、四二五	二一	三九六

年次	生産量 (噸)	前年ニ比シ増(減)、歩合 (%)	指数
大正十二年	三三八、一〇六	一二	四四四
大正十三年	三五七、〇八四	五	四六九
大正十四年	四一四、七〇六	一六	五四五
大正十五年	五〇〇、三〇一	二〇	六五七
昭和二年見込	六二一、八八七	一六	八一七

備考 括弧内ノ數字ハ負數ヲ示ス

木材「バルブ」ノ將來ニ對スル生産見込數ハ六十二萬四千餘噸ト推定セラレシガ既設工場ノ擴張及新設工場數増加ノ爲將來ハ樺太ニ於テ二十七萬七千餘噸、北海道二十三萬餘噸、内地十八萬二千餘噸、朝鮮一萬一千餘噸合計七十萬一千餘噸ニ達スヘク推定セラレ

次ニ木材「バルブ」ノ種類別生産ニ就テ觀ルニ大正二年ニハ亞硫酸「バルブ」一萬五千七十七噸、碎木「バルブ」五萬四千四噸ニシテ其割合前者三割七分後者六割三分ナリシカ爾來亞硫酸「バルブ」ノ生産著シク増加シ同八年ヨリ遂ニ亞硫酸「バルブ」ハ碎木「バルブ」ノ産額ヲ凌駕スルニ至リ大正十五年ニハ亞硫酸「バルブ」二十五萬八千六百餘噸、碎木「バルブ」二十三萬四千九百餘噸「クラフトバルブ」六千八百餘噸ノ産出ヲ見タリ而シテ其割合亞硫酸「バルブ」五割二分、碎木「バルブ」四割七分「クラフトバルブ」一分ニ當ル更ニ大正十五年(昭和元年)ニ於ケル木材「バルブ」ノ生産ヲ述ヘンニ前年ニ比シ産出ノ増加











北越製紙株式会社		東海紙料株式会社		同 八代工場		岐阜縣中津町工場		長野縣大桑町 木曾工場		合 計	
新潟(長岡市)工場	計	静岡縣島田町工場	計	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド パ ル	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド パ ル	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド パ ル	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド パ ル
二、九四五	三、三三三	六、七五六	七、三三〇	六五、七九	一六、七五	四九、〇四	三、四四	八、〇六	四、七三	三、〇九	一、〇〇
三、三三三	三、三三三	七、三三〇	七、三三〇	六九、四七	一七、二六	五三、二二	四、〇八	七、五八一	四、三〇	三、二六	一、〇〇
三、四四二	三、四四二	一〇、三三〇	一〇、三三〇	九〇、六五	三一、三〇	五九、三五	六、九二	一〇、二三六	六、四六	三、七二	九、六九
五、九五〇	五、九五〇	八、〇三六	八、〇三六	一一三、九二	三四、八二	八八、一〇	七、五五〇	九、八〇七	六、〇九四	三、七二	一一、九七〇
一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一四三、七八	四一、六六	一〇二、一四	九、〇〇〇	一〇、二九七	六、三九九	三、八九	一七、二七〇
二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一六五、五七	五七、〇四	一〇八、五二	九、五〇〇	一〇、三〇〇	六、四〇〇	三、九〇〇	二一、〇〇〇
益一本本年一月運轉開始尙 ホ將來一本増設見込				十五年三月九州製紙會社ヲ 併合 二年七月ヨリダイゼスタ 一台増設 二年二月ヨリグラインダ 一台増設 十五年三月中央製紙會社ヲ 併合							

三浦物産株式会社		樺太木材紙料株式会社		富山縣伏木工場		鴨綠江製紙株式会社		南滿洲安東縣工場		總 計		外 計
高知縣幡多郡 八東村工場	サ ル フ ア イ ト	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド パ ル	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド パ ル	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド パ ル	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド パ ル	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド パ ル	サ ル フ ア イ ト
			三、九七五									
			四、〇〇〇									
			五、四一〇									
			五、七五〇									
			七、三〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									
			九、五〇〇									
			三、五〇〇									
			六、〇〇〇									



備考

- 一、本表ニ於テハ單位以下ノ端數ハ四捨五入シタルモノナリ
- 二、日本化學紙料株式會社ノ樺太落合工場及同知取及富士「バルブ」株式會社ノ池田工場ハ富士製紙株式會社ニ北海工業株式會社ノ伏木工場ハ王子製紙株式會社ニ尙ホ九州製紙株式會社、中央製紙株式會社ハ最近樺太工業株式會社ニ併合セルヲ以テ各該當會社ノ内ニ包含セシメ之ヲ掲記セリ
- 三、樺太工業株式會社ノ惠須取工場ハ前鶴城工場ナリ株式會社新宮商行伏木工場ハ大正十五年一月新設ノ樺太木材紙料株式會社ニ讓渡セリ
- 四、曩ニ木材「バルブ」ノ製造ヲ開始シタル大日本製紙株式會社深川區千田町第一同東平井町第二工場ハ大正九年六月ヨリ休業大正十二年ノ大震災ノ際工場燒失シタルヲ以テ本表ニハ之ヲ掲記セズ
- 五、鳴綠江製紙株式會社ノ南滿洲安東縣工場ノ分ハ參考ノ爲括弧ヲ附シ記載セルモ本表産額總計ニ加算セズ（以下同シ）

木材「バルブ」ノ地方及種類別生産額

工場所在地	木材「バルブ」種類		昭和元年	昭和二年	將來見込
	大正十二年	大正十三年			
樺太	サルファイトバルブ	103,218噸	108,167噸	150,576噸	210,474噸
	グラウンドバルブ	-	-	-	19,736
計		103,218	108,167	150,576	230,210
北海道	サルファイトバルブ	53,877	53,363	64,903	67,977
	グラウンドバルブ	97,188	105,695	129,628	139,681
計		151,065	158,858	194,531	207,658

木材「バルブ」産額ノ地方別割合ヲ示セハ次ノ如シ

地方	大正十三年		大正十四年		昭和元年		昭和二年見込		將來見込	
	産額	同率	産額	同率	産額	同率	産額	同率	産額	同率
内地	23,233	15.2%	21,708	13.8%	26,897	17.5%	36,540	23.5%	46,732	30.5%
朝鮮	6,592	4.3%	6,851	4.3%	10,514	6.9%	11,930	7.8%	13,536	8.9%
合計	151,065	100%	158,858	100%	153,031	100%	207,658	100%	230,210	100%
滿洲	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

工場所在地	大正十三年		大正十四年		昭和元年		昭和二年見込		將來見込	
	産額	同率	産額	同率	産額	同率	産額	同率	産額	同率
樺太	108,167噸	71.6%	113,094噸	71.2%	161,433噸	103.5%	246,979噸	118.9%	330,666噸	143.6%
北海道	151,065噸	100%	158,858噸	100%	153,031噸	100%	207,658噸	100%	230,210噸	100%



朝 鮮	滿 洲	合 計
八、二八〇	一〇〇・〇	三、七〇、八四〇
二・〇	一〇〇・〇	四、四七、七六〇
一、三三、七	一〇〇・〇	五、〇〇、三〇一
二・四	一〇〇・〇	六、三、八七
一、一、五〇〇	一〇〇・〇	七、八、五〇〇
一・八	一〇〇・〇	八、二、八〇〇
一、一、五〇〇	一〇〇・〇	九、三、八〇〇
一・六	一〇〇・〇	一〇、四、九〇〇

更ニ昭和元年(大正五年)及同二年(見込)木材「バルブ」産額ニ就キ種類別ノ割合ヲ示セハ左表ノ如シ

工場所	昭和元年(大正十五年)		昭和二年見込	
	木材「バルブ」産額	百分率上	木材「バルブ」産額	百分率上
樺太	一五四、五七六	五九・八%	二二〇、四七四	六四・五%
北海道	六四、九〇三	二五・一%	六七、九七七	二〇・八%
内地	二六、八七七	一〇・四%	三六、五四〇	一一・一%
朝鮮	一一、三〇七	四・七%	一一、四〇〇	三・五%
小計	二五八、六六三	一〇〇・〇%	三三六、三九一	一〇〇・〇%
(滿洲)			(六、〇〇〇)	
樺太	一一九、六六八	五五・二%	一九、七三六	七・一%
北海道	一〇五、一三四	四〇・八%	一一九、三三〇	五〇・一%
内地	二三四、七三三	一〇〇・〇%	二七八、七二七	一〇〇・〇%
小計			(一八、〇〇〇)	
合 計	五〇〇、三〇一	一〇〇・〇%	六二一、八八七	一〇〇・〇%

種 別	在工場場所	木材「バルブ」種類	大正十三年	大正十四年	昭和元年(大正十五年)	昭和二年見込	摘 要
クラフトバルブ	樺太	小 樺	六、八五五	一〇〇・〇	一・三	一六、七三九	一〇〇・〇
合 計		小 計	六、八五五	一〇〇・〇	一・三	一六、七三九	一〇〇・〇

種 別	在工場場所	木材「バルブ」種類	大正十三年	大正十四年	昭和元年(大正十五年)	昭和二年見込	摘 要
パ ル プ	樺 太	サルファイトバルブ	五、二二〇	七、八四三	一〇九、四〇三	一三、一八六	樺太工業株式會社泊居工場、恵須取工場、王子製紙株式會社大泊工場、豊原工場、野田工場
プ	北 海 道	サルファイトバルブ	一六、一九八	一七、七七七	一八、七六六	一八、九九九	富士製紙株式會社池田工場
ル		グラウンドバルブ	七、四〇七	六、九七四	七、四五三	七、五八四	富士製紙株式會社金山工場
業	内 地	サルファイトバルブ	一一、三三〇	一四、〇三〇	一一、三〇〇	二、五〇〇	東海紙料株式會社島田町工場
工		グラウンドバルブ	一一、三三〇	一四、〇三〇	一一、四八六	一四、八〇〇	樺太木材紙料株式會社伏木工場
場	合 計	グラウンドバルブ	八五、一五五	一一八、八六四	一四九、四〇八	一八二、〇六九	
		サルファイトバルブ	六六、四一八	九七、八六〇	一二九、四六九	一五九、六六五	
		合 計	一八、七七七	二二、〇〇四	一九、九三九	二二、三三四	



パルプ及抄紙業工場

種別	昭和十四年					昭和十五年				
	合	朝	内	北	樺	合	朝	内	北	樺
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
サルフアイトパルプ	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400
グラウンドパルプ	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
クラフトパルプ	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
計	13,600	13,600	13,600	13,600	13,600	13,600	13,600	13,600	13,600	13,600

種別	昭和十四年		昭和十五年	
	額	率	額	率
サルフアイトパルプ	11,400	83.1%	11,400	83.1%
グラウンドパルプ	1,100	8.1%	1,100	8.1%
クラフトパルプ	1,100	8.1%	1,100	8.1%
計	13,600	100.0%	13,600	100.0%

種別	昭和十四年		昭和十五年	
	額	率	額	率
サルフアイトパルプ	11,400	83.1%	11,400	83.1%
グラウンドパルプ	1,100	8.1%	1,100	8.1%
クラフトパルプ	1,100	8.1%	1,100	8.1%
計	13,600	100.0%	13,600	100.0%



第三項 木材「パルプ」原料使用額

本邦ニ於ケル「パルプ」原料木材ノ使用量ハ大正二年ニ百一萬三千餘石ナリシカ同七年ニハ二百七十六萬石トナリ五ヶ年間ニ約二倍七分ノ増加ヲ來シ更ニ同九年ニ三百九十三萬八千餘石トナリ僅々二ヶ年間ニ四割二分以上ノ増加ヲ示シタルモ同十年ハ前年ヨリ約一割一分強即チ四十五萬石ヲ減シタリ然ルニ同十一年ハ前年ヨリ約二割同十二年ハ約一割同十三年約五分翌十四年ハ約一割八分同十五年ハ約二割一分ヲ増加セルカ故ニ大正十五年中ノ使用額實ニ七百一萬餘石ノ多キニ上レリ

而シテ大正九年迄ノ使用量ノ著シク増加セル地方ハ樺太及北海道ニシテ樺太百三十五萬餘石、北海道百六十萬七千餘石ナルニ對シ内地ニ於テハ僅ニ七十六萬九千餘石ヲ算スルニ過キス朝鮮ニ於テハ大正八年事業ヲ開始シ九年ニハ二十一萬餘石ヲ使用セリ超エテ大正十一年以降内地、北海道、樺太ニ於ケル木材ノ使用量年々増加シ大正十五年中内地ハ前年ヨリ約二割六分ヲ増加シ百五十萬八千八百二十石ニ上リ又北海道ハ約一割四分ノ増加ニシテ二百四十八萬五千六百四十七石、樺太ニ於テハ三割強ヲ増加シ二百八十一萬二千百十二石ニ達セリ而シテ曩キニ休業中ノ朝鮮工場ニ於テモ大正十四年下半年ヨリ事業ヲ開始シ大正十五年中ノ原料材使用量ハ二十萬三千八百四十四石ヲ算セリ

製紙原料木材ニ就キ大正二年以降同十五年(昭和元年)ニ至ル累年使用量ヲ比較スレハ次表ノ如シ

年次	使用量(石)	前年ニ比シ増(減)歩合	指數
大正二年	一、〇一三、五二六		一〇〇
大正三年	一、一六五、六二〇	一五	一一五
大正四年	一、四三一、五九一	二三	一四一
大正五年	一、七九三、八六九	二五	一七七
大正六年	二、三一九、二六七	二九	二二九
大正七年	二、七六八、〇六七	一九	二七三
大正八年	三、三八九、六三〇	二二	三三四
大正九年	三、九三八、三六〇	一六	三八八
大正十年	三、四八七、五五七	(二・四)	三三四
大正十一年	四、一八四、五八〇	二〇	四一三
大正十二年	四、六一〇、四〇五	一〇・二	四五五
大正十三年	四、八三二、五二一	四・八	四七七
大正十四年	五、六七二、九六〇	一七	五五九
大正十五年	七、〇一〇、四二三	二四	六九二
(昭和元年)	八、七八九、七七七	二五	八六七



原料木材ノ將來ニ於ケル使用見込額ハ曩ニ八百五十一萬一千三百二十一石ト推定セラレシカ工場ノ伸縮擴張等ニヨリテ異動アルヲ免レサル所ナリ樺太ニ於テハ四百五十五萬七千餘石、北海道二百八十九萬一千餘石内地ニ於テ二百一十一萬六千餘石、朝鮮ニ於テ十九萬石合計九百七十五萬五千餘石ニ達スヘク推定セラル次ニ原料木材ノ產地別ニ就キ之ヲ見ルニ大正二年ニハ内地材十二萬七千餘石、北海道材八十五萬二千餘石、樺太材三萬三千餘石ニ過ギサリシモ大正九年ニハ内地材十二萬一千餘石、北海道材百九十七萬四千餘石、樺太材百六十三萬一千餘石トナリ北海道材樺太材ハ何レモ著シク増加シ更ニ朝鮮材二十一萬餘石ヲ加ヘタリ大正十年ニハ北海道材、百九十九萬餘石、朝鮮材二十二萬八千餘石トナリシニ内地材ハ十萬六千餘石、樺太材ハ百十三萬六千餘石ニ減少シタルモ新ニ西伯利材二萬三千餘石ノ使用ヲ見タリ翌十一年ニハ西伯利材及樺太材著シク増加シ又北海道材亦稍々増加ヲ見タリシカ内地材及朝鮮材ハ何レモ其量ヲ減シタリ更ニ大正十二年同十三年同十四年同十五年ノ狀況ヲ見ルニ獨リ樺太材北海道材ハ年々逐フテ増加シ西伯利材ハ十二年ニ増加ヲ示セルモ翌十三年ニハ前年ノ約半額ニ下リ更ニ大正十四年以降今日マテ之カ使用ヲ見ス之ニ反シ北海道材ハ十二年ニ稍々減少ヲ見タルノミニシテ翌十三年ニハ再ヒ増加シ更ニ大正十四年同十五年ニ於テモ依然其量ヲ増シ大正十五年中其額二百五十萬九千餘石ヲ算セリ而シテ内地材ハ近時逐年激減ノ一方ニ在リ即チ大正二年ヨリ同八年迄ハ次第ニ増加セルモ同八年ノ二十萬七千餘石ヲ最高トシ翌九年ヨリ年々減少ヲ續ケ大正十五年ニハ僅ニ一

萬九千五百五十石ヲ使用セルニ過キスシテ何レモ内地工場ニ供給セラレタルモノナリ

次ニ北海道材ハ大正二年僅ニ八十五萬二千餘石ノ使用ニ過キサリシカ爾來歲ト共ニ増加シ同十年ニハ百九十九萬二千餘石、同十一年ニハ二百十二萬五千餘石、同十二年ハ稍々減少シ二百十萬三千餘石トナレルモ同十三、十四、十五年ニハ年々増加ノ一方ニ在リ

樺太材ニ就テハ大正二年ニハ僅ニ三萬三千餘石ナリシモ爾來急激ニ増加シ同九年ニハ百六十三萬一千餘石トナリ同十年ハ一旦百十三萬六千餘石ニ減少セシモ翌十年以降年々激増シ大正十一年百七十萬三千餘石、同十二年二百三十一萬餘石、十三年二百五十一萬三千餘石、同十四年三百二十九萬五千餘石同十五年ハ四百三十四萬五千餘石ニ増加セリ大正十五年中ノ同材ニシテ内地工場ニ於テ使用セシモノハ百四十二萬二千餘石、朝鮮工場ニ於テ使用セシモノ六萬八千餘石、北海道工場ニ於テ使用セシモノ四萬三千餘石ナルカ故ニ二百八十一萬二千餘石ハ樺太工場ニ於テ使用セルモノナリ

次ニ工場所在地別ニ原料木材ノ使用額ヲ見ルニ大正十五年中内地工場ニ於テ百五十萬八千餘石、北海道工場二百四十八萬五千餘石、樺太工場二百八十一萬二千餘石ヲ使用セリ

而シテ同年中内地工場ノ使用量ヲ產地別ニ就キ之ヲ見ルニ前年ト同シク樺太材最モ多ク其額百四十二萬二千餘石ニシテ前年ノ同材使用量ヨリ約三割ノ増加ヲ示セリ之ニ反シテ北海道材ハ減少シテ僅ニ六萬七千餘石ニ過キスシテ大正十一年迄ノ情勢トハ全ク其趣ヲ異ニスルニ至レルモノナリ







同	富士第三工場	北海道材	三五、四八	三九、一七四	二四、七二〇	二四、七七八	二〇、〇一八	
同	樺太材	二八、四六三	五八、七六三	一四一、八九九	一八四、一四六	一九五、〇一五	一九七、八二二	
同	西伯利材	三六、五五三	一八、七九九			三九、九一一		
計	一〇〇、三六三	一六六、六六九	二〇八、九二四	二二五、〇三三	二二七、七三三			
内地材								
北海道材	四〇、八一〇	四三、五四三	一七、二五六	一四、七〇九	一〇、八四六			
樺太材	三三、八三八	六三、八二四	九四、〇四六	一〇九、二三八	一一八、五八七	一〇七、七〇一		
西伯利材	二一、二五九					二一、七三三		
計	九四、九〇七	一〇六、三五七	一一、三〇〇	一二三、九四七	一二九、四三三	一二九、四三三		
北海道材								
樺太材	二、二四九	一一、三三三	一四、五五九	二四、一九一	二三、四一一	二三、四一一		
西伯利材	八、三七四							
計	一〇、六三三	一一、三三三	一四、五五九	二四、一九一	二三、四一一	二三、四一一		
東京府南千住町工場								
東京府中川工場								
樺太材				四〇、〇〇七	四〇、八二一	四〇、八二一		
北海道材	一五、九三六							
樺太材	六、〇七五	二一、九二六	二二、七四九	二二、六七九	二五、九七四	二五、九七四		
計	二一、〇一一	二一、九二六	二二、七四九	二二、六七九	二五、九七四	二五、九七四		
兵庫縣神崎工場								
北海道江別工場								
北海道材	四三、〇三三	四八、七、六九一	五〇四、七四九	五九三、五四三	六二、六一七	六三、六一七		
樺太材	七五、七七五	七二、二二五	六七、七九七	六九、六三三	七一、六五三	七一、六五三		
同	金山工場							

同	釧路工場	北海道材	一五、九五〇	一五八、二六三	一六四、五三八	二七五、三二二	三〇二、三四六	三〇二、三四六
同	池田工場	北海道材	二六三、三五四	二八五、二五七	三三〇、八九五	三三六、六五七	三四五、三八四	三四五、三八四
同	樺大落合工場	樺太材	三三七、九八七	三四七、九〇〇	四五七、五二四	五九八、八二四	七五一、二七五	八五四、九五二
同	知取工場	樺太材				六七五、五〇〇	六七五、五〇〇	六七五、二二七
東京府江戸川工場		北海道材	九、六九九					
樺太材			四九七	二六、五五九	二二、五四九	二八、九七一	三三、〇六八	三三、〇六八
計	一〇、一九六	二六、五五九	二二、五四九	二八、九七一	三三、〇六八	三三、〇六八	三三、〇六八	三三、〇六八
内地材								
北海道材	一、〇九〇、六四二	一、一四三、二七	一、一三〇、五四一	一、三四二、五三八	一、三九六、九九九	一、三四一、九九九	一、三四一、九九九	一、三四一、九九九
樺太材	四五八、五三三	六二六、九〇四	九〇三、七一九	一二六、八二六	二、〇七七、四八一	二、一九八、九二二	二、一九八、九二二	二、一九八、九二二
西伯利材	一三〇、四五五	七、〇三六					一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
計	一、六七九、六三〇	一、八三〇、一六七	二、〇三三、二〇〇	二、五五九、三六五	三、四七四、四七九	三、六五〇、九二一	三、六五〇、九二一	三、六五〇、九二一
樺太工業株式會社								
樺太泊居工場		樺太材	四六八、八六〇	四六四、〇〇〇	五〇一、五〇〇	五五三、六五六	六一四、八三九	六三〇、七〇〇
同	惠須取工場	樺太材			一七、〇〇〇	四三二、七六九	五四四、三三三	六九一、五五五
同	眞岡工場	樺太材	二三五、〇〇〇	二九六、〇〇〇	三三三、〇〇〇	三四八、九三五	三七二、三〇〇	四〇八、〇〇〇
同	熊本縣坂本工場	樺太材	一五四、八四八	一四一、〇一〇	一六四、六四八	二〇五、一六七	二三五、二二〇	二三五、八〇〇
同	八代工場	樺太材		九、五一五	八、八三〇	一三一、六三〇	二〇一、九七〇	二六五、二〇〇







計	(外ニ)				西伯利材 總計
	(滿洲材)	(西伯利材)	(朝鮮材)	(樺太材)	
					一三九、〇五五
					四、六、〇、四〇五
					四、八、三、五二二
					五、六、七、三、九六〇
					七、一〇、〇、四三三
	(一、八、〇、〇〇〇)	(一、八、〇、〇〇〇)	(一、八、〇、〇〇〇)	(一、八、〇、〇〇〇)	八、七八九、七七七
	(一、五、〇、〇〇〇)	(一、五、〇、〇〇〇)	(一、五、〇、〇〇〇)	(一、五、〇、〇〇〇)	九、七、五、五、九五
	(一、五、六、〇〇〇)	(一、五、六、〇〇〇)	(一、五、六、〇〇〇)	(一、五、六、〇〇〇)	三、四、〇、〇〇〇

(備考)

一、將來ノ木材使用見込額中産地別ノ材積ハ大正十五年ノ狀況ヲ考慮シ推算セルモ工場ニ依リテハ將來其異動アルヲ免レス即チ西伯利材ノ輸入並樺太材ノ移入増加ニ伴ヒ北海道材内地材ノ使用量ニ變化ヲ來スカ如キ其一例トス

製紙原料木材産地別使用額

木材ノ産地	工場地所	大正十三年	大正十四年	昭和元年 (大正十五年)	昭和二年見込	將來見込
内地材	内地	四三、五二九	三五、七八六	一九、三六三	一九、五五〇	三三、四三五
	北海道	一四三、七九二	九七、五六三	六七、四〇五	五五、〇〇〇	二、四九一、九九九
計	内地	二、〇五六、九八八	二、一六二、三四一	二、四四二、四二七	二、六四一、九九九	二、四九一、九九九
	北海道	二、一九九、七七九	二、二五九、九〇三	二、五〇九、八三三	二、六九六、九九九	二、四九一、九九九

樺太材	朝鮮材	滿洲計	内地	西伯利材	滿洲計	合計	工場地所							
							内地	北海道	樺太	朝鮮	滿洲	朝鮮	滿洲	内地
一八七、五〇三	二、五三三、七九	二、五三三、七九	七六、四九四	七六、四九四	四、八三三、五二二	六九六、三二七	一、〇二〇、二四九	二、二六二、六〇〇	三、二九五、六九九	七〇、九四〇	八一、五七三	一、〇二〇、二四九	一、四四、〇五三	一、七三四、九九一
二、〇五六、九八八	二、一九九、七七九	二、一九九、七七九	七六、四九四	七六、四九四	四、八三三、五二二	二、〇五六、九八八	二、一六二、三四一	二、四四二、四二七	二、五〇九、八三三	二、六九六、九九九	二、八二二、一一三	二、八二二、一一三	四、一五八、三三七	四、五五七、三三四
二、〇五六、九八八	二、一九九、七七九	二、一九九、七七九	七六、四九四	七六、四九四	四、八三三、五二二	二、〇五六、九八八	二、一六二、三四一	二、四四二、四二七	二、五〇九、八三三	二、六九六、九九九	二、八二二、一一三	二、八二二、一一三	四、一五八、三三七	四、五五七、三三四
二、〇五六、九八八	二、一九九、七七九	二、一九九、七七九	七六、四九四	七六、四九四	四、八三三、五二二	二、〇五六、九八八	二、一六二、三四一	二、四四二、四二七	二、五〇九、八三三	二、六九六、九九九	二、八二二、一一三	二、八二二、一一三	四、一五八、三三七	四、五五七、三三四
二、〇五六、九八八	二、一九九、七七九	二、一九九、七七九	七六、四九四	七六、四九四	四、八三三、五二二	二、〇五六、九八八	二、一六二、三四一	二、四四二、四二七	二、五〇九、八三三	二、六九六、九九九	二、八二二、一一三	二、八二二、一一三	四、一五八、三三七	四、五五七、三三四
二、〇五六、九八八	二、一九九、七七九	二、一九九、七七九	七六、四九四	七六、四九四	四、八三三、五二二	二、〇五六、九八八	二、一六二、三四一	二、四四二、四二七	二、五〇九、八三三	二、六九六、九九九	二、八二二、一一三	二、八二二、一一三	四、一五八、三三七	四、五五七、三三四

製紙原料木材ノ地方別使用割合ヲ示セハ左表ノ如シ



工場所在地	大正十三年		大正十四年		昭和十五年		昭和二年見込		将来見込	
	材積	百分率	材積	百分率	材積	百分率	材積	百分率	材積	百分率
内地工場	九五、〇三	一九・八%	一、九五、四九七	二・二%	一、五八、八三〇	二・五%	一、七九、五四	二〇・五%	二、二六、六八	二・七%
北海道工場	二、〇五六、九八八	四三・六%	二、一六三、三四一	三八・一%	二、四八五、六四七	三五・四%	二、六四一、九九九	三〇・五%	二、八九一、九九九	二九・六%
樺太工場	一、八二二、五〇三	三七・六%	二、一六三、六六〇	三八・一%	二、八二二、一一三	四〇・一%	四、一五八、一三七	四七・三%	四、五五七、三四	四六・七%
朝鮮工場	—	—	一五、三五二	二・七%	二〇三、八四四	二・九%	一九〇、〇〇〇	二・三%	一九〇、〇〇〇	一・九%
滿洲工場	四、八三三、五二一	一〇〇・〇%	五、六七三、九六〇	一〇〇・〇%	七、〇一〇、四三三	一〇〇・〇%	八、七九九、七七七	一〇〇・〇%	九、七五五、九五	一〇〇・〇%
計	—	—	—	—	—	—	(一五六、〇〇〇)	—	(三三〇、〇〇〇)	—

## 第二節 本邦ニ於ケル木材「パルプ」ノ輸出入状況

### 第一項 木材「パルプ」ノ輸入

一、木材「パルプ」輸入累年表

年次	數量		價額	
	斤	噸	額	當
大正元年	七六、九〇四、九八三	四五、四二五	四、三七九、八六六	五・五五
大正二年	七九、七六、七八〇	四七、一三三	四、六二〇、四七七	五・七九
大正三年	七六、一七五、〇二〇	四四、九九四	四、五七四、二二三	六・〇〇
大正四年	九〇、一九三、〇八〇	五三、二七四	五、九七四、八九三	六・六三
大正五年	九六、九六九、四二一	五七、二七七	九、七二〇、七一九	九・三〇
大正六年	一四、〇〇〇、四四一	一四、二三四	二、八〇〇、七四一	一・六三
大正七年	四八、三三三、五五四	二八、五八八	六、八三五、五八九	一四・一四
大正八年	六八、一七五、九二八	四〇、二六九	一〇、六六七、二〇八	一五・六七
大正九年	七八、六三六、九一五	四六、四八八	一三、一九〇、三八三	一六・七七
大正十年	六五、六四五、六〇〇	三八、七七五	八、八九九、一三八	一三・四五
大正十一年	一一、五三〇、八〇〇	六五、八七二	一一、七五五、四二一	一〇・五四
大正十二年	(一、〇七〇、一、一〇〇)	(三五、四四七)	(六、三三三、八三九)	(一〇・五五)
大正十三年	一〇〇、八二二、八〇〇	五九、五五三	一〇、六三三、七七五	一〇・五四
大正十四年	一三三、一〇六、三〇〇	七九、四四〇	一四、九二五、二〇八	一・三八
昭和十五年	一〇六、九一五、三三三	六三、一五一	一一、〇七七、八八一	一〇・三一
計	—	—	—	—

年次	數量		價額	
	斤	噸	額	當
大正二年	七九、七六、七八〇	四七、一三三	四、六二〇、四七七	五・七九
大正三年	七六、一七五、〇二〇	四四、九九四	四、五七四、二二三	六・〇〇
大正四年	九〇、一九三、〇八〇	五三、二七四	五、九七四、八九三	六・六三
大正五年	九六、九六九、四二一	五七、二七七	九、七二〇、七一九	九・三〇
大正六年	一四、〇〇〇、四四一	一四、二三四	二、八〇〇、七四一	一・六三
大正七年	四八、三三三、五五四	二八、五八八	六、八三五、五八九	一四・一四
大正八年	六八、一七五、九二八	四〇、二六九	一〇、六六七、二〇八	一五・六七
大正九年	七八、六三六、九一五	四六、四八八	一三、一九〇、三八三	一六・七七
大正十年	六五、六四五、六〇〇	三八、七七五	八、八九九、一三八	一三・四五
大正十一年	一一、五三〇、八〇〇	六五、八七二	一一、七五五、四二一	一〇・五四
大正十二年	(一、〇七〇、一、一〇〇)	(三五、四四七)	(六、三三三、八三九)	(一〇・五五)
大正十三年	一〇〇、八二二、八〇〇	五九、五五三	一〇、六三三、七七五	一〇・五四
大正十四年	一三三、一〇六、三〇〇	七九、四四〇	一四、九二五、二〇八	一・三八
昭和十五年	一〇六、九一五、三三三	六三、一五一	一一、〇七七、八八一	一〇・三一
計	—	—	—	—

(備考) 一、數量、噸未満四捨五入セルモノナリ  
 一、曩ニ山林局出版ノ木材「パルプ」調査書中大正元年以降輸出入斤數ノ長噸換算率ニ統一ヲ缺キシモ本表ノ數字ハ總テ一六九三斤ヲ一噸トシテ換算掲上セリ以下之ニ準ス  
 一、大正十二年中ノ數量及價額ハ同年八月中ニ於ケル横濱港經由輸入ノ分(關東震災ノ爲大藏省統計簿燒失ニ付其額不明)ヲ含マサルヲ以テ括弧ヲ附シテ區別セリ以下各表共括弧ノ分ハ之ニ準ス



二、木材「バルバ」國別輸入表

輸入國	大正十二年		大正十三年		大正十四年		昭和十五年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
瑞典	10,979,400斤	1,307,766圓	2,350,500斤	2,381,903圓	3,564,400斤	3,987,255圓	3,753,800斤	3,477,277圓
挪威	5,913,800	697,845	8,599,700	941,011	8,162,900	1,094,795	9,238,900	1,170,393
北美合衆國	3,131,200	429,608	7,467,900	855,578	2,474,800	2,523,388	7,330,500	792,803
加奈陀	2,866,200	2,651,753	5,633,800	5,071,571	5,978,200	5,706,605	5,733,000	4,945,666
其他	2,180,500	1,246,867	2,400,900	1,373,723	2,926,000	1,559,273	2,489,033	1,631,954
合計	26,011,100	6,333,839	10,833,800	10,633,775	13,110,600	14,925,266	16,691,533	11,017,882

大正元年以降過去十二年間ニ於ケル木材「バルバ」輸入ノ趨勢ヲ見ルニ數量ニ於テ大正五年迄ハ年々大體増加ノ傾向ニアリシモ同六年ニ入り急ニ激減シ翌七年ハ増加シテ前年ノ約倍額ニ上リ同八、九年ハ更ニ増加セルモ同十年ハ前年ヨリ約一割七分ヲ減セリ然ルニ大正十一年ニハ激増シ六萬五千餘噸ニ達シタルモ大正十二年ニ入り減少シ大正十年ノ分ト略ホ相近似スルニ至レリ然ルニ大正十三年、同十四年ハ引續キ激増セルモ十五年ニ入り減少シ六三、一五一噸トナレリ而シテ輸入ノ平均價額ハ大正元年以來同九年迄ハ年々騰貴ノ一方ヲ辿リ同十一年ヨリ急ニ低落シ十一年以降ハ益々安價トナリ十三年ニハ一斤當リ僅ニ十錢五厘トナリシモ大正十四年ニ幾分ノ昂騰ヲ告ケタルモ十五年ニ入り復又下落シテ

大正五年頃ノ價額ニ接近スルニ至レリ  
而シテ木材「バルバ」ノ本邦ヘノ輸入國ハ從來瑞典、加奈陀及北美合衆國ノ三箇國ヲ主トシ相互ニ競争シテ時ニ盛衰アリ大正十年ニハ加奈陀品著シク激増シ其首位ヲ占メ瑞典品之ニ次キタルモ同十一年ニハ瑞典品ハ加奈陀品ヲ凌駕シ第一位ヲ占メ加奈陀品之ニ亞キ北美合衆國、挪威ノ順序トナレリ大正十二年ヨリ同十五年迄ハ依然加奈陀品第一位ヲ占メ瑞典品之ニ次ク唯茲ニ注意スヘキハ大正十三年以來獨逸ヨリノ輸入激増セルコト及大正十四年同十五年中獨逸及北美合衆國ヨリノ輸入量増加シ挪威品ヲ凌駕セルカ如キコト是レナリ

三、大正十五年  
中ニ於ケル木材「バルバ」輸入港別並仕出國別輸入表

國別	合計	橫濱港	神戸港	大阪港	門司港
英國	15,810擔	14,484擔	1,326擔		
佛國	5,305	1,081	3,081		1,111
獨逸	95,966	33,111	37,789	5,276	14,889
瑞典	1,378	1,378			
チエツクスロバキ	1,663				1,663
和蘭	1,138		1,138		
合計	117,000	117,000	117,000	117,000	117,000



計	支那	埃太利	伊太利	其他ノ歐洲諸國	加奈陀	合衆國	丁抹	諾威	瑞典
一、〇六六、一五二、一〇七、七八二	〇	一六、三三四	三、四〇一	六、七九六	五〇四、七二六	九三、六九九	一、二四三	九二、二八九	三二七、五二八
四二六、一八四、二六七、〇三一	〇	一七〇、九三九	三六、一九三	八七、四三九	四、七六二、三五九	九六、〇五九	一七、七六四	一、一〇〇、三九三	二、四七七、一一七
五七三、二五六	一	七、六六三	三、四〇一	—	二二、七六一	五、八六九	五三七	五、八九四	九、七〇五
五、九八六、六八四	—	八二、一一一	三六、一九三	—	二、一七〇、四三八	五〇〇、九六九	九、四八五	九〇、二六七	九三九、二二六
六	—	—	—	—	二六六、二六八	二七、三二二	七〇五	八六、三九五	一、三三、六五〇
二	—	—	—	—	二、四三八、八三七	二九九、七五四	八、二七九	一、〇八〇、二二六	一、三九三、八四九
六、七六	—	八、五六三	—	—	一四、六九七	—	—	—	一三、一六七
七四、一五六	—	八八、八三八	—	—	一五三、〇八四	—	—	—	一四四、〇四三

第二項 木材「パルプ」ノ輸出

本邦産木材「パルプ」ノ海外輸出ハ大正六、七年頃年々四千噸ニ達シタルモ翌八年ニハ激減シテ僅ニ一千百噸トナリ同九年ニハ一躍八千八百噸ノ多キニ上リタルモ同十年ニ入り再ヒ一千百噸ニ減少シ同十一年ニハ輸出極メテ不振ニ陥リ漸ク三十餘噸ニ過キス大正十二、十三、兩年ニハ一層不況トナリ僅ニ三、四噸ヲ輸出シタルノミニシテ大正十四年ニハ僅ニ九百斤ニシテ皆無トモ云フヘキ状態トナレリ

尙ホ大正十五年中ハ輸出ヲ見サリキ

而シテ其ノ輸出價格ニ就テモ大正九年迄ハ一斤當約金十四錢ナリシカ同十年ニハ著シク下落シ約半額トナリ僅ニ金六錢五厘強ニ下落セリ然ルニ同十一年ニハ稍持直シ九錢五厘強大正十二年ニハ一斤當金九錢八厘同十三年同シク九錢六厘ヲ示シ其輸出總額ハ大正六年ニ八十七萬五千餘圓、同七年ニ百五萬餘圓、同八年二十六萬四千餘圓トナリ同九年ハ急激ニ増加シテ在來ノ情勢ヲ一變シ實ニ百九十一萬餘圓ノ巨額ニ達セシモ翌十年急減シテ十二萬五千餘圓トナリ十一年ニハ更ニ減少シテ約五千圓トナリ十二年ニハ四百五十六餘圓十三年六百五十圓トナリ大正十四年ニハ僅ニ七十八圓ニ過キス翌大正十五年ニハ皆無ナリキ

大正七年以降ノ輸出量ヲ示セハ次ノ如シ

年次	數量		價	
	斤	噸	總數	一斤當
大正七年	六、五六五、八六〇	三、八七八	一、〇六〇、五三七	一六、〇〇
大正八年	一、八五八、一九九	一、〇九七	一、四八、〇〇〇	一四、一一
大正九年	一、三、七四三、二八七	八、一一七	一、九二二、七四六	一三、九三
大正十年	一、九一八、六〇〇	一、一三三	二、五、五四九	六、五四







昭和二年三月二十八日印刷  
昭和二年三月三十一日發行

農 林 省 山 林 局

印刷者 小 張 才 三 郎  
東京市京橋區南鍛冶町九番地

印刷所 小 張 印 刷 所  
東京市京橋區南大工町五番地

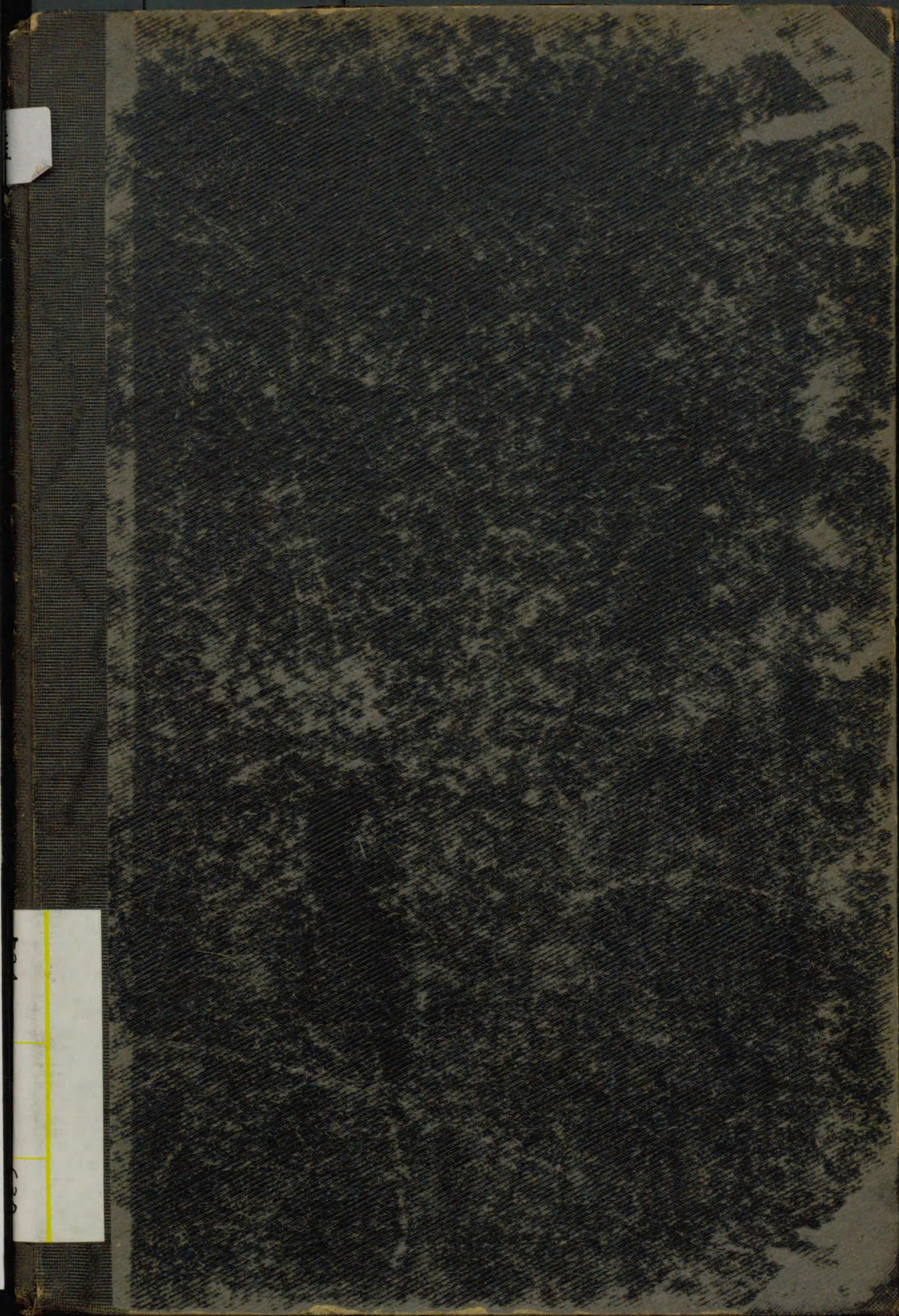
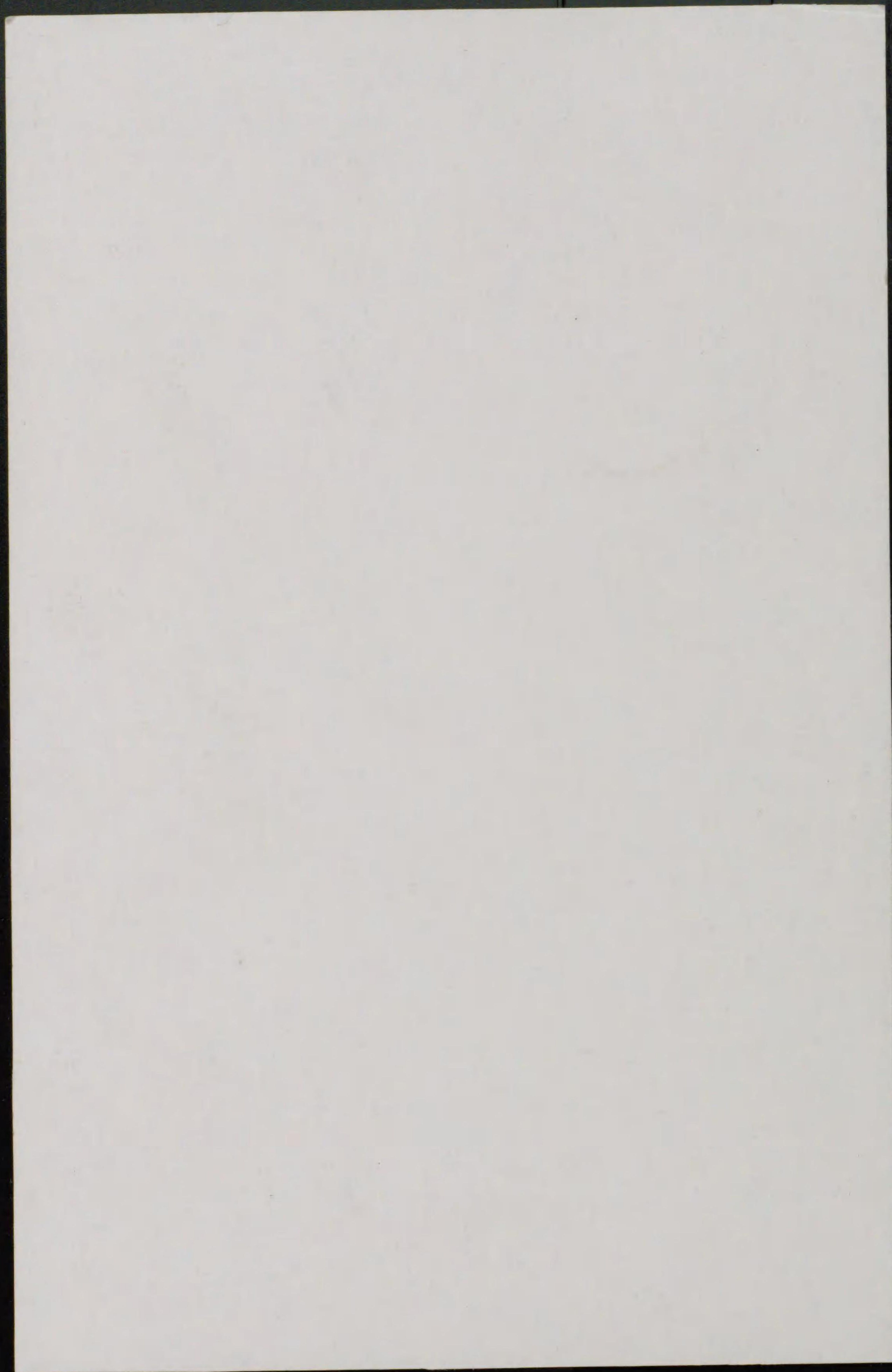


5  
6



524  
630





Small white label with a yellow vertical line, possibly containing text or a barcode, located on the spine of the book.